

重点取組分野	令和 元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	学習のねらいを明確にし、学習の質を高め、UDを意識し「分かる楽しい授業」の実現に努める。基礎・基本の定着を図るとともに学習の道筋を大切に。また児童の考えを生かすことで、児童が主体的に学習に取り組むことができるよう努める。	教職員は学習のねらいを毎時間明確にして指導を行っていた。学力学習状況調査の結果を分析し、本校の児童に合わせた学力向上に取り組んできた。重点研究を中心に、日々の授業力の向上に努め、児童の考えを取り入れながら、めあてに沿って主体的に学習できる「わかる楽しい授業」の実現に努めていた。	A
豊かな心	道徳の時間はもとより、あらゆる教育活動を通して、自他を大切にす心育や態度を育てるとともに、自他の違いを認め合える子どもを育てる。縦割り活動等による異学年交流や幼保小交流を通して、自己有用感を高め、相手を思いやる心や自分への気付きや自信を構築する。学習場面では、実体験を重視するとともに、試行錯誤や自己決定の場、伝え合い受け止め合う。	各学級で行われる道徳の授業については、教具資料の整備も進み、価値に迫る授業の在り方が学年研等で共有、検討されている。なかよし活動は回を重ねることで児童の関係性も深まり、活動の充実につながっている。授業研究を柱として主体的な学び手育てる授業改善に取り組んでいる。	B
健やかな体	体育の最初に短なわを3～5分行い、持久力の向上を目指す。なわとびポイントカードも活用し、楽しみながら進められるようにする。保健委員会を中心に毎月姿勢週間を徹底し、よい姿勢を保つことへの意識をもたせ、体幹を鍛える。	体育の最初の短なわは定着した。「なわとびポイントカード」は、なくても習慣になっているので、改善していく。 姿勢メダルや姿勢体操は、児童の姿勢や体幹への意識も高まるので、継続の価値あり。	B
児童指導	学年を核として専科や児童指導専任等、複数の視点で児童理解に努め、児童の実態や背景を踏まえた支援指導が展開されるよう配慮する。児童指導部を中心に、児童情報の整理を行い共有を進めるとともに、対応の基本について共通理解を深める。専門家による児童の実態に応じた非行防止教室等を実施する。	全学年で授業交換、または複数指導等が実施され、複数の視点から児童理解を進めることができている。職員間でも気になるときは気になるときに共有されるようコミュニケーションの推進が図られている。対応の基本についてまとめ、職員の共通理解を図った。6年生を中心に情報モラル、薬物乱用防止について授業を行った。	A
特別支援教育	学年担任、専科、特別支援Co等で情報を共有するとともに、必要に応じて外部機関の助言を活用し、丁寧なアセスメントに努める。面談などの機会を大切にし、保護者と連携を取りながら、支援の方策を考えていく。コンサルテーションや学校支援事業を活用し、専門的な知見から研修を深められる機会を設ける。	特別支援教育を開始する際のアセスメントに学年を中心として複数の視点を取り入れ、実態を把握するようにしている。必要に応じて面談を設定し、児童の様子や支援の実状についての情報が保護者に伝えられるとともに保護者の思いや願いに耳を傾けるよう努めた。	B
地域連携 地域理解	①生活科、社会科、総合的な学習の時間を核とし、地域の自然、施設、まちを大切にしている方々の思いに触れる学習をとり入れていく。②地域コーディネーターに依頼する内容を早い時期に整理し、発信して、「茅ヶ崎のまちに学ぶ」の具現化を図る。	各学年とも学習時間を中心に、またたんけんや遊歩道たんけん、茅ヶ崎公園や生態園など、茅ヶ崎のまちの自然や施設を生かした学びを計画し、実践してきた。関係する人との関わりも地域コーディネーターに発信を依頼し、茅ヶ崎の人材発掘を学習に生かしてきた。今後はコーディネーターへの連絡時期を、より早くしていきたい。	B
安全管理	火災・地震の避難訓練に加え、交通安全教室、不審者対応訓練、集団下校訓練等の校内訓練・研修を計画的に実施する。また避難経路を各教室に掲示し、児童の安全への意識を高める。毎月安全点検を行い、地震などの災害に備え、教職員の協働により校舎内外の整理・整頓・清潔を心掛け、学校環境を整備する。	火災・地震の避難訓練に加え、交通安全教室、不審者対応訓練、集団下校訓練等の校内訓練・研修を計画的に実施した。避難経路を各教室に掲示し、児童の安全への意識を高めた。毎月安全点検を行い、教職員の協働により校舎内外の整理・整頓・清潔を心掛け、学校環境を整備した。	A
自分づくり (キャリア教育)	①特別活動で他学年とふれ合ったり、総合的な学習を通して、友達や地域の人々とふれ合ったりする機会をつくる。②様々な行事等の後で、自分のよさや友達のよさに気づく機会をつくる。	なかよし活動や人権集会、学習や行事の成果を伝え合う活動を通して、異学年と関わり合いを多くもつことができるようになってきた。また、友達や地域の方々と関わることで、そのよさを感じる機会ももてるよう、振り返りの時間を大切にできた。それらの取組から、自分や友達の頑張りを感したり、認め合ったりすることができた。	B
いじめへの 対応	Y-Pアセスメントやプログラムを活用し、集団の実態把握や集団づくり、社会性の育成充実を図る。子どもたち一人ひとりが自己有用感をもてるように、授業や行事の中で活躍できる場面を設定していく。初期対応に関する研修を行い、迅速かつ丁寧な対応ができるように努める。年複数回アンケートや面談を実施する。	望ましい学級風土づくりに向けた支援が検討実施されている。受容的、親和的な関係を目指すとともにいじめはしない、させない学級づくりを進めてきた。ユニバーサル視点を取り入れ、どの子も参加でき、どの子にも手ごたえが感じられる活動、授業の工夫が図られている。	A
人材育成・ 組織運営 (働き方改 革)	①交換授業・教科担任制などの学年の実態に合わせた取り組み方法を工夫する。②メンターチームで話し合い、活動内容を決め、意欲的に取り組む。また、それを受けて、メンターチーム以外の教員も共に学ぶ機会をもつ。③会議の目的を明確にし、タイムマネジメント意識をもつ。④事務作業を補助する職員室業務アシスタントの配置により、教職員の負担軽減と業務改善を図る。	学年に応じて、交換授業を実施し、担任だけでなく複数の教員が児童に関わるようにした。相談窓口を増やすことにもつながったのはよかったと思う。メンターチームの研修では、自主的に研修内容を決め、意欲的に取り組むことができた。講師となった教員が再度学ぶ機会もなった。特に、企画会のスリム化を目指して、議題を精選し、学年で討議するように改革した。職員室アシスタントの配置により、教員の印刷業務や綴じ込み作業を軽減することができた。	B
ブロック内 評価後の 気付き	合同で行った授業研究会では、教科領域ごとに小学校・中学校のねらいの違いや育てたい力を確認することができた。小学校3校と中学校のつながりを深めたり、相互評価しながらお互いを高め合ったりするために、小中教諭による相互の授業参観及び研究討議、レク研修、児童生徒交流日、中学生の小学校への合唱訪問等を行い、大いに成果をあげた。		
学校関係者 評価	挨拶は、場面にに応じてしっかりできていると感じている。挨拶を言い合える環境づくりが大事だが、大人の方が挨拶をしないこともある。保護者とともに考えてほしい。道徳は、考えること、哲学すること。人の意見をよく聞いて、自分の意見も言える子どもに育ててほしい。学校教育で、様々な体験を行っているのはよいことである。地域としても大いにバックアップしていきたい。"いじめ"は、あるものだとらえておいたほうがよい。小さな芽のうちに対応する。日頃から子どもを多く目で見たいことなどを大切にしてほしい。		
中期取組 振り返り	様々な学習形態を工夫して、学びの質が高めるように努めた。カリ作成と並行して重点研究を行い、自ら問題解決をする子どもの育成を目指した。地域のひと、施設、自然に恵まれているという利点を生かし、豊かな学びや学力の伸長を図った。教職員の共通理解、連携、組織対応、外部機関の活用により、児童指導に関する問題の未然防止を図ることができたと思うが、更に推進していきたい。地域と学校のつながりが深まるように、地域コーディネーターの人材を増やし、「地域の中にある学校」としての役割を果たしていきたい。		

重点取組分野	令和 2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①交換授業や少人数制個別指導など児童の実態に即した指導方法を効果的に取り入れることでじっくり考える時間を確保する。②学習のねらいを明確にし、学習の質を高める。また、UD(重点研究)を中心として学習し「分かる楽しい授業」の実現に努める。③児童の考えを生かすことで、児童が主体的に学習に取り組むことができるよう努める。この学習を通して実生活を含む様々な場で活用可能な資質・能力の育成につなげる。	①交換授業や少人数制個別指導を取り入れることで、指導内容や指導方法を精選することによって、児童の考えを生かすことができる。②学習のねらいを明確にし、UD(重点研究)を中心として学習し「分かる楽しい授業」により、児童が主体的に学習に取り組むことができる。③学習課題を設定する際に、児童の考えを生かすことができたことで、児童が主体的に学習に取り組むことができた。この学習を通して実生活を含む様々な場で活用可能な資質・能力の育成につなげた。	A
豊かな心	①全学級での道徳の授業公開を行い、保護者にも「道徳」について知ってもらえる機会を作る。②なかよし活動による異学年交流を行い、相手を思いやる心を育てる。③人権教育実践推進校として中学校ブロックで共通した願いをもった取組を行う。	各学級で行われる道徳の授業については、教具資料の整備も進み、価値に迫る授業の在り方が学年研等で共有、検討されている。なかよし活動は回を重ねることで児童の関係性も深まり、活動の充実につながっている。今年度は、高学年対象で人権移動教室も行い、人権意識の向上に努めた。	A
健やかな体	①学校保健委員会の活動を通して健康について積極的に考える機会を作る。②食育推進委員会の活動を活発にし、食育の年間指導計画を明確にする。③短縄の実践や児童会主催の活動を通して、児童が運動に親しむ機会と場所を創っていく。	学校保健委員会では、コロナ対策を各クラスで話し合い、実践してきたことで茅ヶ崎小の新しい生活様式が身に付いた。食育年間指導計画を明確にし、新型コロナウイルスで行事変更をしたが原案を生かして改善し、実施した。短縄の実践は体育の最初に習慣化し、体力向上に寄与している。	B
児童指導	①配慮を用いる児童の状況と指導方法を共有し、一貫した児童指導が行えるようにする。②アンケート調査を活用し、いじめや児童間トラブルの早期発見に努める。③YPアセスメントや横浜プログラムを行い、集団づくりに生かしていく。	全学年で授業交換、または複数指導等が実施され、複数の視点から児童理解を進めることができている。職員間でも気になるときは気になるときに共有されるようコミュニケーションの推進が図られている。対応の基本だけでなく、新型コロナウイルス感染症対策の指導についてもまとめ、職員の共通理解を図った。	A
特別支援教育	①特別支援教育コーディネーターが複数になった利点を生かし、児童のアセスメントを綿密に行う。②保護者と丁寧な面談し、ニーズを聞き取りながら支援方法を探っていく。③療育センター、養護学校等の外部機関からのアドバイスを受けて、合理的配慮の具体を見つけていく。	特別支援教育を開始する際のアセスメントに学年を中心として複数の視点を取り入れ、実態を把握するようにしている。必要に応じて面談を設定し、児童の様子や支援の実状についての情報が保護者に伝えられるとともに保護者の思いや願いに耳を傾けるよう努めた。校内事情の関わりで、支援を要する児童への支援の体制を工夫して行った。	B
地域連携 地域理解	①地域の伝統や文化を大事にしている方々との交流を行えるような単元開発を行い、学習に取り入れる。②地域コーディネーターの力を借りて、地域に眠っている材の開発を行う。	生活科、理科、社会など学習において、茅ヶ崎公園、生態園、まち探検、都筑中央公園、駅の見学、区役所、警察署、消防署の見学を行い、茅ヶ崎のまちの自然や施設を生かした学びを計画し、実践した。今年度活用した施設を次学年に確実に引き継ぐようにした。	B
安全管理	①避難訓練に加えて、交通安全教室、不審者対応訓練、集団下校訓練等を行っていく。事前の綿密なシミュレーションをもって教職員の研修とする。②共通で使う場所や物をきれいにして、整理しようという気持ち育てる。③校舎内外の整理整頓や危険箇所の発見に努め、児童が安全に過ごせるように点検を怠らない。	火災・地震の避難訓練に加え、交通安全教室、不審者対応訓練等、校内訓練・研修を計画的に実施した。事前の綿密なシミュレーションをもって教職員の研修とする。②共通で使う場所や物をきれいにして、整理しようという気持ち育てる。③校舎内外の整理整頓や危険箇所の発見に努め、児童が安全に過ごせるように点検を怠らない。	A
自分づくり (キャリア教育)	①なかよし活動で異学年交流を行ったり、地域の人と触れ合えるような「総合」学習に取り組んだりする。②振り返りカードや自分づくりパスポートを活用し、行事や学習活動の後で、自己の成長やよさ、友達のがんばっているところに気づく取組を行う。	年間3回なかよし活動で、異学年交流を行った。学習や行事のめあてを決め、取り組みや成果を伝え合う中で自分の成長や課題を考える機会をもたせることができた。自分づくりパスポートは全学年で取り組み、確実に次学年に引き継ぐことができた。	B
いじめへの 対応	①友人関係、集団作り、社会性の育成という点からみた本校の児童の課題を洗い出す。②一人ひとりが自己有用感をもてるように、授業や行事の中で活躍できる場面をつくっていく。③児童の小さな変化に気付くよう、教職員のアンテナを高めよう。④初期対応に関する研修を行い、迅速な対応ができるスキルを養う。	望ましい学級風土づくりに向けた支援が検討実施されている。受容的、親和的な関係を目指すとともに「いじめはしない、させない」学級づくりを進めてきた。新がコロナウイルス感染症対策に関するいじめが起こらないように、職員で研修を行った。	A
人材育成・ 組織運営 (働き方改 革)	①学年内での交換授業や教科担任を行い、常に自分の指導方法や指導技術を問いただす機会を作っていく。②メンターチームの取組を強化し、授業力の向上に努める。③会議の目的を明確にし、タイムマネジメント意識をもつ。④ミラ임을効果的に活用し、情報の伝達を図る。	①学年内での交換授業や教科担任を行い、常に自分の指導方法や指導技術を問いただす機会を作っていく。②メンターチームでは、自主的に研修内容を決め、意欲的に取り組んだ。また、指導案検討・授業研究会などを行うことで、メンター所属教員の授業力や運営力を高めていく。③授業資料にねらいを必ず明記することで論点を明確にした。また、企画会・職員会議のあり方について検討し、改善点を明確にした。④ミラ임을掲示板中でも周知・依頼など分類して投稿することで、何を伝えたいのかを明確にした。	A
ブロック内 評価後の 気付き	今年度は、コロナ禍の中、小中ブロックでの活動も推進することは難しかった。その中で『9年間育てる子ども像』『小中一貫ブロックとして育てたい資質・能力』を確認し各校で実現に向けて取り組んだ。重点研究では「学び合い」に視点をあてて進めてきた。一人一人が、他者とのかかわり(集団)の中で学ぶことで豊かな成長を育んでいくことを目指した。人権教育の取組としては、YPアセスメントの活用・あいさつ運動の取組・横浜プログラムの有効活用などを行った。		
学校関係者 評価	コロナ禍であることを踏まえ、放課後の遊び方について様々な意見が出された。地域にある公園に大勢が集まり、そこで大声を出し、マスクをしないで遊んでいる。またお菓子を食べたゴミが多く散らしている。地域住民で公園環境の美化に努めていることを知ってほしい。保護者は、我が子が放課後どこでどのような遊びをし、どのような飲食をしているか、実態を把握する必要があるのではないか。親の責任において見ていくことが大切だ。見守りをしていると、「ありがたいございます。」というお礼の挨拶がきちんとできる子がいて、素晴らしいと思う。		
中期取組 振り返り	今年度は、4～5月の臨時休業があり、感染症拡大防止対策も取っていかねばならなかったことから、今までの教育活動全般を大きく見直さざるを得なかった。そのことが行事の精選や計画の再検討、ICTの促進につながり、ピンチがチャンスになったとらえていきたいと思う。重点研究の教科を国語にし、子どもたちの言語活動を豊かにすることをねらって取り組んできた。子どもどうしの学び合いを深めることを念頭に置き、常に意識した授業を行うことができた。学校地域コーディネーターが増員され、コロナ禍においても地域の協働学習が後戻りすることはなかった。今後も地域のひと、もの、自然に恵まれているという利点を生かし、豊かな学びの創造と学力の伸長を目指して、茅ヶ崎のまちを愛する子どもを育てていきたい。		

重点取組分野	令和 3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①交換授業や少人数制個別指導など児童の実態に即した指導方法を効果的に取り入れることで、児童の考えを生かすことができる。②学習課題を設定する際に、児童の考えを生かすことができたことで、児童が主体的に学習に取り組むことができた。この学習を通して実生活を含む様々な場で活用可能な資質・能力の育成につなげる。③学習のねらいを明確にし、学習の質を高める。また、UD(重点研究)を中心として学習し「分かる楽しい授業」の実現に努める。	①交換授業や少人数制個別指導など児童の実態に即した指導方法を効果的に取り入れることで、児童の考えを生かすことができる。②学習課題を設定する際に、児童の考えを生かすことができたことで、児童が主体的に学習に取り組むことができた。この学習を通して実生活を含む様々な場で活用可能な資質・能力の育成につなげた。③学習のねらいを明確にし、学習の質を高める。また、UD(重点研究)を中心として学習し「分かる楽しい授業」の実現に努めた。	A
豊かな心	①全学級での道徳の授業公開を行い、保護者にも「道徳」について知ってもらえる機会を作る。②なかよし活動による異学年交流を行い、相手を思いやる心を育てる。③人権教育実践推進校として中学校ブロックで共通した願いをもった取組を行う。	①全学級での道徳の授業公開を行い、保護者にも「道徳」について知ってもらえる機会を作る。②なかよし活動による異学年交流を行い、相手を思いやる心を育てる。③人権教育実践推進校として中学校ブロックで共通した願いをもった取組を行う。	A
健やかな体	①学校保健委員会の活動を通して健康について積極的に考える機会を作る。②食育推進委員会の活動を活発にし、食育の年間指導計画を明確にする。③短縄の実践や児童会主催の活動を通して、児童が運動に親しむ機会と場所を創っていく。	①学校保健委員会の活動を通して健康について積極的に考える機会を作る。②食育推進委員会の活動を活発にし、食育の年間指導計画を明確にする。③短縄の実践や児童会主催の活動を通して、児童が運動に親しむ機会と場所を創っていく。	B
児童指導	①配慮を用いる児童の状況と指導方法を共有し、一貫した児童指導が行えるようにする。②アンケート調査を活用し、いじめや児童間トラブルの早期発見に努める。③YPアセスメントや横浜プログラムを行い、集団づくりに生かしていく。	①配慮を用いる児童の状況と指導方法を共有し、一貫した児童指導が行えるようにする。②アンケート調査を活用し、いじめや児童間トラブルの早期発見に努める。③YPアセスメントや横浜プログラムを行い、集団づくりに生かしていく。	A
特別支援教育	①特別支援教育コーディネーターが複数になった利点を生かし、児童のアセスメントを綿密に行う。②保護者と丁寧な面談し、ニーズを聞き取りながら支援方法を探っていく。③療育センター、養護学校等の外部機関からのアドバイスを受けて、合理的配慮の具体を見つけていく。	①特別支援教育コーディネーターが複数になった利点を生かし、児童のアセスメントを綿密に行う。②保護者と丁寧な面談し、ニーズを聞き取りながら支援方法を探っていく。③療育センター、養護学校等の外部機関からのアドバイスを受けて、合理的配慮の具体を見つけていく。	B
地域連携 地域理解	①地域の伝統や文化を大事にしている方々との交流を行えるような単元開発を行い、学習に取り入れる。②地域コーディネーターの力を借りて、地域に眠っている材の開発を行う。	①地域の伝統や文化を大事にしている方々との交流を行えるような単元開発を行い、学習に取り入れる。②地域コーディネーターの力を借りて、地域に眠っている材の開発を行う。	B
安全管理	①避難訓練に加えて、交通安全教室、不審者対応訓練、集団下校訓練等を行っていく。事前の綿密なシミュレーションをもって教職員の研修とする。②共通で使う場所や物をきれいにして、整理しようという気持ち育てる。③校舎内外の整理整頓や危険箇所の発見に努め、児童が安全に過ごせるように点検を怠らない。	①避難訓練に加えて、交通安全教室、不審者対応訓練、集団下校訓練等を行っていく。事前の綿密なシミュレーションをもって教職員の研修とする。②共通で使う場所や物をきれいにして、整理しようという気持ち育てる。③校舎内外の整理整頓や危険箇所の発見に努め、児童が安全に過ごせるように点検を怠らない。	A
自分づくり (キャリア教育)	①なかよし活動で異学年交流を行ったり、地域の人と触れ合えるような「総合」学習に取り組んだりする。②振り返りカードや自分づくりパスポートを活用し、行事や学習活動の後で、自己の成長やよさ、友達のがんばっているところに気づく取組を行う。	①なかよし活動で異学年交流を行ったり、地域の人と触れ合えるような「総合」学習に取り組んだりする。②振り返りカードや自分づくりパスポートを活用し、行事や学習活動の後で、自己の成長やよさ、友達のがんばっているところに気づく取組を行う。	B
いじめへの 対応	①友人関係、集団作り、社会性の育成という点からみた本校の児童の課題を洗い出す。②一人ひとりが自己有用感をもてるように、授業や行事の中で活躍できる場面をつくっていく。③児童の小さな変化に気付くよう、教職員のアンテナを高めよう。④初期対応に関する研修を行い、迅速な対応ができるスキルを養う。	①友人関係、集団作り、社会性の育成という点からみた本校の児童の課題を洗い出す。②一人ひとりが自己有用感をもてるように、授業や行事の中で活躍できる場面をつくっていく。③児童の小さな変化に気付くよう、教職員のアンテナを高めよう。④初期対応に関する研修を行い、迅速な対応ができるスキルを養う。	A
人材育成・ 組織運営 (働き方改 革)	①学年内での交換授業や教科担任を行い、常に自分の指導方法や指導技術を問いただす機会を作っていく。②メンターチームの取組を強化し、授業力の向上に努める。③会議の目的を明確にし、タイムマネジメント意識をもつ。④ミラ임을効果的に活用し、情報の伝達を図る。	①学年内の交換授業や教科担任を行い、常に自分の指導方法や指導技術を問いただす機会を作っていく。②重点研究と年次研修とメンターチームの取組を連携することで、授業力や運営力などの向上に努める。③会議の目的や進行方法を明らかにし、タイムマネジメントの意識をもつ。④ミラ임을効果的に活用し、情報の伝達を図る。	A
ブロック内 評価後の 気付き			
学校関係者 評価			
中期取組 振り返り			